

## あれから25年…阪神・淡路大震災

『平成の時代で最も印象に残ったことは何ですか?』と問われたときに、多くの人が**阪神淡路大震災**を挙げると思います。当時、「関西地方では大きな地震は来ない」と言われていました。しかし、1995年(平成7年)1月17日午前5時46分。その時はやって来しました。

死者6434名、重傷者4万3992名。  
全壊・全焼家屋10万4906棟の甚大な被害がありました。建物が倒壊し、人々はその下敷きになり、あちこちで火災が occurred。水道管が破裂して消火用の水が出なくなったうえに、道路の寸断によって緊急車両も走れない状況でした。地震発生直後に停電になり、それまで使っていたライフラインが一瞬で使えなくなりました。



地震でゆがんだ線路



そんな中、日本国内だけでなく、世界中から被災地にボランティアの人が集まってきました。

震災直後は、消防や救助などの「**公助**」は1割程度でした。あとは、民間や近所の人々が、互いに支えあい助け合いました(「**共助**」)。

震災後、その教訓から非常食や水を避難用に常備するようになりました。

あれから25年・・・経験をした人には、それぞれの**阪神淡路大震災**への思いがあります。一昨年の6月、大阪北部地震で皆さんは比較的大きな地震に遭いました。



あの時、どれだけの人自身が自身を守る行動をとることができたでしょうか。

あの時を思い出しながら、**阪神淡路大震災**を経験された方の話を積極的に聞いてみてください。

どのように自分の命を守るのか、家族で話し合ってみてください。

「**災いと訓練には終わりはない**」のですから…。

(校長 太田 忠男)



避難訓練の様子